

館 報



お お く ま

— おもな内容 —

- 2面・3面……新年の抱負
- 4面……俳句
- 5面……幼児教育
- 6面……学級だより
- 7面・8面……みんなの広場

発行編集 大熊町公民館
印刷所 新栄社写真美術印刷



輝ける
我らが
最良の年

紅白歌合戦の興奮も
除夜の鐘の音と共に
遠く波間に消えていった
夜のじじま
すべてのものは
短かい時間ではあれ眠った
ゆく年の思い出を
そのまま残して そして
くる年の華やかな夢を
描きながら
やがて昇る 太陽が
情熱の太陽が
希望の太陽が
万物は活動をはじめた
それは大熊町の夜明けてもある
昭和五十一年
輝ける我等が
最良の年であるように

(写真は 大熊小良浜にて)

新年おめでとうございます

昭和五十一年元旦

教育長 吉田農夫雄



旧年中は教育行政にたいし、市民の皆さまの心からのご理解と協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

新年もまたよろしくお願い申し上げます。

国や県と同じく、町の教育行政もまた、今後の十年間を想定し、更に五年間ごとの計画を概定し、その中で毎予算年度の重点施策を決定して進めております。

昭和五十年年度の「大熊町教育委員会重点施策」につきましては、五十年一月一日発行の公民館報第八三号を始め、何回かにわたって皆様にご報告いたしましたとおりですが、おかげ様をもちまして大専業であった大熊中学校の建築整備をはじめ、そのほとんどが計画の遂行率百パーセント近く的好成绩で終る見通しであります。

町当局・町議会・学校教育関係者・社会教育(含社会体育)関係者はもとより、市民の皆様のご理解とご協力に対し、心から御礼を

申し上げますとともに、新年度も引き続き、ご指導とご協力をいただきますようお願いいたします。

昭和五十一年度

教育施策について

昭和五十一年度は、国や県の方角、すでに樹立してある五ヶ年計画、町政の全般的な方向、町教育行政の実態などを検討して、昭和五十一年度「大熊町教育委員会重点施策」を策定中でありますが、特に、今年度町教育行政をつらぬく二本の柱として、次の点を考えて行きたいと思っております。

才一は、物質文化の向上に比して精神的文化の著しいたちおくれのみられる今日の社会情勢の中で教育行政はどうあるべきかを、真剣に検討して行くこと。

才二は、学校教育部門・社会教育部門・社会体育部門に対する環境整備が充実されてきた現在、教育成果の質的な向上にとりくむための施策。

以上全般をつらぬく事項です。教育分野毎に一言申し上げます。
○ 大熊中学校
プール等残された部分の建築を

完了し、教育機器等を整備して教育の質的な向上に万全を期したい。

○ 小学校

熊町小学校が県の「小学校研究会体育科会場校」として全県下の研究会発表指定校となるので、これを機会に学力はもとより、保健体育、道徳指導、生徒指導に積極的にとり組む様にしたい。

○ 幼稚園

幼児教育の万全を期するために



ごあいさし

公民館長 高野昭一

町内の皆さんには恙なく年の瀬を越され希望に満ちた新しい年を迎えられたこと、お喜び申し上げます。日頃から皆さんに親まれご愛顧をいただいております。館

逐次園舎を整備したい。これがため、とりあえず大野幼稚園の改善を図りたい。

○ 社会教育(含社会体育)

社会教育は創造と組織力であるという観点にたち、生涯教育の立場から、もう一度洗いなおして、時代の転換におくれなないようにしたい。

さいごに

町の教育行政が計画の線に沿いながら組織的に進行しておりますことを力強くうれしく思います。

最初にも申し上げましたが、これもひとえに町当局・町議会・教育委員会・各学校及び社会教育関係者の方々・市民の皆さんが「教育先行」の一致した方向に結集しておられる賜と深く感謝申し上げます。新春の言葉といたします。

報おおくま」も漸く八十八号を発売する運びとなり誠に同慶に耐えない所でございます。人で申すならばまさに「米寿の祝」を迎えたいのでその過ぎ来し方を想うときうたた感慨無量のものがあり先輩各位のご労苦に対し心から敬意と感謝の誠を捧げるものでございます。私も昨年四月一日館長に就任以来十ヶ月皆様方よりお寄せ

た、きました温いご声援とご指導を唯一のたよりに懸命の努力をいたして参りましたがもとより浅学非才の身何ら成し得なかつたことを深く反省すると共に社会教育の重要性とその難しさを痛感いたしました。従って今後は更に皆様方のご指導を仰ぎながら「いつでも、どこでも、誰でも」夫々の立場に応じた学習のできる環境づくりに向って一層の研鑽と努力を続けて参りたいと思っております。社会構造の急激な変化をとげつつある昨今人々の物質的な生活は豊かになり情報接触の中は広がり余暇時間は増加し物心両面での行動選択の範囲は著しく拡大されたのであります。しかしながらその反面いわゆる世代間の断絶、人間疎外、地域連帯感の減退、交通災害など憂うべき現象は枚挙に遑のない程私達の周囲に渦巻いているのであります。こういつた中でいま最も必要かつ要求されているものは何と云っても教養の向上と情操の陶冶であり体育の振興と家庭教育家庭生活の向上であると思えます。これらをふまえて最も身近な機会をとらえ既設の組織施設を活用しその実を挙ぐるべく渾身の力を傾ける所存であります。皆様方におかれましては貴重なご意見、ご叱声等お寄せ下さるようお願い申し上げます。年頭にあたり皆様方のご多幸とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

新年の抱負

体育協会長 志賀秀正



民体育祭を催すことができ更に双葉郡体育大会には優勝の栄冠を獲得するなど皆さんと共に喜んだ次第です。今年こそより以上に立派な成績をあげ得よう各位の尚一層のご精進を期待すると共に体育振興に対する町民各位の深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

町民の皆さんには「広報おおくま」の紙上をお借りいたしました新年のお祝詞を申し上げます。上屋を重ねる感がございますけれども体育協会長といたしまして一言ご挨拶申し上げたいと思います。昔から「体あつてのものがたり」とか言われておりますが先づ何を考えるにいたしましたも健康な体が基本となることは申し上げるまでもありません。最近私共の周辺は次々に都市化し機械化してややもすれば積極的な身体活動や共同生活が少くなる傾向にあるので体育、レクリエーションを更に充実させまた自然との交流を重視して行かなければならないと思っております。そうすることによって明るい健康な家庭が築かれ、これが明るい住みよい町づくりにつながるものと私は確信するものでございます。昨年は近年にない集りをみせた町

新年のごあいさつ

教育委員長 松本幸一



新年おめでとうございます。昨年中は町民の皆様には何かとご協力をいただきました。特に中学校の実質統合では色々心配をおかけ申しましたが、その後屋体建築も校庭整理も順調に進んでおります。



社会教育委員長 愛川 一

年頭の所信

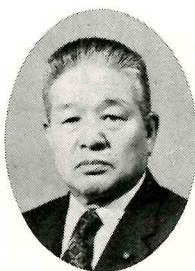
五十一年の新春を迎えるにあたり一言ごあいさつ申し上げます。私達が社会教育委員の任命を受けた昭和四十八年から五十年代の相違点について個人的な考えから発言するならば、前社会教育委員長(現富岡消防署長の太田芳一郎氏)の功績は絶大であり、私が遠くおよぶものではない。今日の立派な大熊町社会教育の実態は前委員長の功績であると厚く敬意を表したい。私が今日までの社会教育のあり方について自問自答するならば、各自が「よい生活」の一言につきかどうかは、その人のもっている価値観に依存するが、この価値観は各人の教育装備や経済的環境とその変化の態様も関係すると思うが経済的、社会的環境の激変の中で物質的欲望から相対的欲望が先に立つようになったようです。

つまり幸福の条件は生活水準の確保という段階から人並の生活をしたいという段階に移行するか、人並との生活は人並以上の欲望に転化しやすけれども、生活が次第に充実してくると物質的から精神的な豊かさを求める。具体的に言えば生き甲斐のある生活の追求であり、たとえば趣味に生き隣人との奉仕に生きる態度、情熱である。しかし、現時点では物質的欲望の充実と精神的幸福の条件を現実させる挑戦であり、今後さらに個性の尊重、創造、趣味豊かな社会教育の環境づくりに対する欲求と生甲斐ある内容の充実をいっそう拡大することが社会教育委員一同の任務と心意であると確信します。で尚一層町民各位の絶大なるご協力をお願い申し上げます。



新年の抱負

体育指導委員長 松本六郎



ふさわしい力を保持しながら不断の精進を続けたいと思うのであります。その為には、あえて体育関係者全員の総力の結集を期待し、私自身その先頭に立ち、お互いの責任と義務を分かち合いつつ、この

年頭にあたって

公民館運営委員長 渡辺 清



新春おめでとうございます。

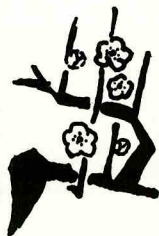
近代化施設を誇る大熊町公民館を拠点として、各々社会教育活動の振興対策が、逐年急速に充実してまいりました事は、洵にご同慶の至りでございます。

公民館社会教育の草創から手塩にかけて、今日の進展に寄与された関係者諸賢の一途な情熱と不撓のご努力に対し心から敬意を表する次第でございます。

重い任務を果して行く覚悟である事を年の初めにお誓い申し上げ、町民皆様のご理解とご協力、体育の限らない発展を通じての健康増進を心から祈念致しまして挨拶いたします。



運営委員会は、實際生活に即する教育と学術文化に関し、各種の事業を行ない、住民教養の向上、健康の増進、情操の純化をはかり、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与すると言う目的に添って、多岐多様な社会の志向や急激な変化にうに対応しつつ、地域社会の特性を生かして、實際活動に役立てるよう謙虚に自己研鑽に努め、乍ら審議に当らなければならぬと思ひます。現に社会教育は幼児教育から生涯教育へと、広く深く限りなく続いています。



身のほたり枯野の果てとなりけり
 里神楽哀しきときは笛吹けり
 咄々と童話読む夜の虎落笛
 母泊めて雨のあがりし花八ツ手
 築解けて無傷の川の海に入る
 咳込めば柱はしける寒の入り
 母の忌の肌瑞々と懸大根
 よれよれの冬帽掴み夜の外へ
 朝の暮冬の泉のこゑきこゆ
 出稼の荷に風邪薬入れてやり
 尻ふりて一鶴の歩りく積冬
 山茶花や父母の石碑の肩寒し
 末枯野鳥が翔ては活きくと
 今は無き村指す霜の道しるべ
 年惜しむ石の如くに炉に座して
 朽ち椅子を埋む落葉や役場跡
 冬かもめ小舟押し出す漁婦の尻
 里神楽肩弾ますは哭くなり
 銀杏散るチグハグと云う美くしさ
 破芭蕉にのみ風はありストの駅
 山峡の光りはぐくみ枇杷の花
 冬枯木叩きて空を仰ぎ見る
 みちのくの女高笑い冬の旅
 茶の木咲く藩祖の墓のまうしろに
 カップうどん食ふ少年や歳の街
 新米を昇けばづしりと亡父母が
 木洩れ陽に取り残されて菊枯るる
 はぐれ鮭一匹を見張る焚火かな
 柿もぐるど重あつまる夕かな
 銀杏散る雲のごとくに昼の月
 はみ出して舗道に赤くこ熱るる
 木の葉髪似合う人らの冬座敷
 吊し繩噛む塩鮭の歯並かな
 まだ糶かぬ稲塚憂しく十二月
 デモ隊の去りし舗道や柳散る
 影ながくなりて路傍のもの蔓

政美 哲郎 舟村 哲郎 秀之 貞夫 美津男 秀之 光耕 秀之 哲郎 政美 舟村 安子 美津男 舟村 安子 光耕 桂子 美津男 舟村 安子 光耕 桂子 美津男 舟村 安子 光耕 桂子 美津男

昭和二十

子どもを 事故から守ろう

年々道路が整備され、交通の便も大変良くなりました。それと共に交通量も多くなり、特に冬季節においては危険を感じ、ハットとすることがたびたびです。冬休みを利用し、身近に起こり得る事故について、

お子さん方と話し合う機会をもち、●事故の恐ろしさ ●事故による多くの傷害 ●事故による周囲への影響(迷惑)などを、ひとつひとつ具体的に例をあげて話し合い、しっかりと知識を身につけさせるなど、どんな小さな事故でも出さないよう、町民の皆さんの努力と協力をお願いいたします。

注意事項

一、降雪時は車の警笛や踏切機の警報が非常に小さく聞こえるとともに、運転手の視野がせまくなる。

一、積雪及び、凍結道路はスリッパしやすく、路肩が危険な状

態になっている。

一、安全な自転車、乗方、車輛の安全点検、交通ルールについてもう一度勉強する。

一、スキー、スケート等の遊び場の危険箇所を教え、そこに立札を立てる等配慮する。

一、スキー、スケート等に行く時は指導者及び保護者と一諸に行く。

一、路上での遊戯、氷すべり、その他火遊び、小づかい銭の使用等にも注意しよう。

大熊町教育委員会
大熊町幼・小・中・高・PTA連絡協議会

いぞがれる 幼児教育

幼児教育は人づくりの基盤であるといわれ、小学校の入学前に八十五パーセントの児童が「幼児学校」といわれる幼稚園または保育所で教育を受けている。

文部省は、昭和四十六年に「幼児学校」に目をつけ、幼児教育(就学前教育)の二年と小学校の二年を合わせ、四年制の幼児学校を計画している。更に、「四十七年度から十年間計画をたてたので五十三年三月までに五才児の希望者全員が就園できることを目標としたい」という方針で計画をたてた

ので福島県でも、国の方針にしたがい五十一年度までに希望する五才児全員が幼稚園に行くことができるよう、市町村に指導助言をしたいとしている。その方針をふまえて大熊町では、すでに希望する四才児と五才児の全員を就園させ、就園率は勿論百パーセントに達している。参考までに、この百パーセントという数字はあくまでも就園を希望する幼児に対する就園率であり、町内に在籍する四才・五才児全体に対する就園率は、五十年十二月現在で、四才児は五十

八パーセント、五才児は七十七パーセントとなる。

就園率をふやすことは勿論、この恵まれた幼児教育内容を充実させることが最高の幼児教育の完成と考えている。たしかに、現在の町の幼児教育の実績、成果は大きく評価されるのであるが、この量的質的普及に甘んじ、父兄はややもすると教育的使命を全て幼稚園または保育所にまかせてしまう傾向が見られる。つまり、朝早く送り出し、幼稚園に行っていればしつから学習の内容まで身につくという考えかたになりがちであるがこれはまったくの誤りであること、あらたに知っていた、ききたいと思う。

こどもは、家庭と幼稚園の二つの教育の場を区別して考える能力は低い。こどもは、幼児教育の場と家庭とを切りはなして生活して行くことは出来ない、教育の成果を高めるためには、常に両者の連絡、協力が必要となる。幼

幼稚園または保育所を幼児教育をすすめるうえの家庭に代わるものと考えず、幼児教育は、家庭と幼稚園または保育所との協力関係によって成立するものであることを知るべきである。

別表 (郡内幼稚園の現状)

種別 町村名	公立幼稚園数	学校に併設	独立設置	園長の現状	事務職員 の現状	給食の 現状	園児数		クラス数		スクールバスの現状
							4才	5才	4才	5才	
浪江町	2	1	1	小学校長 兼 事務	なし	小学校 に便乗		100		4	へき地園児の み、へき地小 学生に便乗
広野町	1	1	-	小学校長 兼 事務	1	小学校 に便乗		73		3	スクールバス なし
富岡町	2	1	1	小学校長 兼 事務	なし	小学校 に便乗		158		5	へき地園児の み、へき地小 学生に便乗
双葉町	1	-	1	小学校長 兼 事務	なし	弁持 当参		100		3	スクールバス なし
檜葉町	2	1	1	小学校長 兼 事務	なし	小学校 に便乗		112		4	幼稚園バス あり
葛尾村	1	(保育所 に併設)		小学校長 兼 事務	学校事務 職員が兼務	保育所 に便乗		20		1	へき地園児の み、へき地小 学生に便乗
川内村	0	(保育所 のみ)									スクールバス あり
大熊町	2	0	2	小学校長 兼 事務	なし	小学校 に便乗	81	90	3	4	園児全員 バス利用

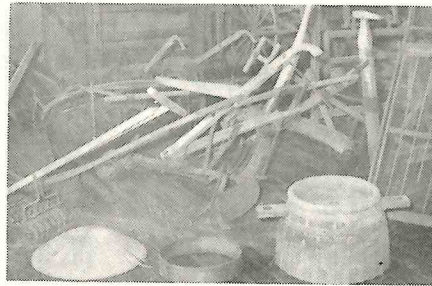
みどり号に学ぶ 高令者大学生

市町村社会教育の振興を図ることをねらいとした、福島県みどり号の巡回指導は、去る十二月十一日午前九時から県社会教育課の神野藤忠吉先生、相双教育事務所の西徹雄先生他多数の講師、助言者を招いて有意義に行われた。当日は、大熊町高令者大学生約五十名が出席し、家庭における老人の立場と役割について認識を深めるべくフィルムフォラムを通してご指導をいただいた。フィルムフォラムでは、最初に十六ミリ映画(すばらしい松おじさん。わるくなつたというけれど)を鑑賞し、映画を見た感想や、それぞれの考



——家庭における高令者の役割について
神野藤先生の講話を聞く大学生——

え方等についてグループ討議をし最後に神野藤先生からまとめの指導をいただき、参加者達は高令者大学に学ぶ楽しさをのぞかせていた。



現在集められた民族資料

残そう 民俗資料

私達先祖の生活文化の姿を資料として残すため、公民館においては民俗資料館を設置し、各種の資料を取集中であります。この資料は児童、生徒の学習教材として、また貴重な生活体験の中から新しい生活文化の創造と社会生活の発展に役立てようとするものであります。現在公民館においては、次のような資料の持ち主と寄贈者を募っておりますので町民皆さんの絶大

なるご協力をお願いいたします。

(衣・食・住用品)

かぶりもの・着物類・はきもの
貯蔵用具・炊事用具・家具・調度品・その他。

(農耕具)

耕作用具・収穫・調製用具・その他。

(漁撈用具・その他)

漁撈用具・狩猟用具・養蚕飼育用具・畜産飼育用具・手工品・運搬用具・通信用具・商業用具・防災用具・その他。

青年学級生

夕べの集い開く

恒例の青年学級「夕べの集い」が、十二月二十日公民館で開催され、歌やゲーム、ダンス等で学級生間の友情を一層深めた。また学級生の善意により金三千四百円が集められ、町社会福祉協議会に寄託した。



友情について語らう学級生

学級 だより

青年学級

日時 二月七日～九日
場所 倉敷市方面
内容 倉敷と吉備路を訪ねて

家庭教育学級

大野
日時 一月十三日十時
場所 大野小学校体育館
内容 子どもの幸福

熊町

日時 一月二十日十時
場所 熊町幼稚園
内容 子どもの幸福

婦人学級

日時 二月五日十時
場所 大熊町公民館
内容 余暇と婦人生活

高令者大学

日時 一月十四日十時
場所 大熊町公民館
内容 老後を考える

若者による新しい

ふるさとづくり事業
日時 一月十六～十八日
場所 近畿地方
内容 都市近郊農業と町づくりについて

視察研修

51年度 幼稚園児募集

1. 募集締切 昭和51年1月20日まで
2. 申込先 教育委員会事務局または入園希望の幼稚園
3. 該当幼児
 - 4 才児(昭和46年4月2日から昭和47年4月1日まで生まれた者)
 - 5 才児(昭和45年4月2日から昭和46年4月1日まで生まれた者)

わたしは昨年、文部省から派遣されて、一ヶ月にわたり欧米の教育事情を視察してきたが、実際に自分の目で確かめ、肌で感じることができたので、非常に意義深いものがあつた。

どんな町や村に行っても、公園や教会のあることには驚きはしなかったが、体育施設や図書館のあるのはびびくりした。図書館も

子どものための図書館を



総合的なものだけでなく、老人専用の図書館もあれば、子どものための図書館もあり、そこで気楽に読書に耽っている様子をみて、実にうらやましかった。

過日、わたしの学校を訪れた人から、敷地に建てられた幼稚園舎を見て、「図書館ですか」ときか

社長になつた教え子

先日教え子たちの同級会に招待された。三十年もたった現在であるが一人／＼に思い出があり、なつかしい集りで時間のたつのも忘れていた。Aという教え子の話である。

先生にあの当時言われたことを私はいまだに忘れることができません。私は悪い生徒でした。山学校はする。ケンカはする。たばこは吸う。先生の苦勞されていることはよくわかりましたある時先生に言われました。

学校の週五日制が話題になっている昨今である。幸いにも本町は体育施設には恵まれている。スポーツ活動も盛んなことは喜ばしい。ここでもう一つの施設、図書館がほしいものだ。成人のための図書館もほしいが、まず子どものための図書館だ。他町村にさがさげ、大熊町で建ててほしい。

大川原 志賀隆文

「お前は大きくなつたらヨタの親分になるのか」と。私は何とかしてそんな人間にはなるまいと心がけて一生けん命頑張りました。そのかいあつて私は今小さいながらも会社の社長になりました。先日社員にヨーロッパ旅行をさせてやりました。先生上京の節はどうぞ私の会社におより下さい。上野まで若い者を迎えに出します。

私はこの教え子の手をにぎってよくやったなどほめてあげた。そし

れて、ハツとした。その時に、「そうだ、この地域に、これぐらいの図書館があつたらなあ、いやもつと小さくてもいい、子どもが気軽に利用できる図書館があれば……」と、しみじみ考えさせられた。

民謡研究会で

老人ホームを慰問

自分の不用意のことばにゾツとした。この生徒はこれを善意にとつてそうならないように努力してりっぱに成功してくれたが、これが反対に歩んだらと思うと、教師の一言の重みがつくづく感じられた。

(元教師)

大熊町民謡研究会(斉藤セツ会長他十六名)では、家庭的に恵まれない老人に暖かい思いやりをというこで、この程富岡町にある



手拍手で聞かいる老人ホームの人々

今年の文化の日の表彰者は四人しかなかった。昨年はあんなに多かつたのに。

そんなに表彰者はないのかと思つて近所の人々をみると何人かの善行者が頭に浮かんでくる。恐らく善行者はそつとしておいてもらいたいと願うに違いない。けれども一人でも多くの善行者をみえ出して住みよい社会にしたいと思う。悪いことはすぐに目につくが、よい面も目につくような明るい社会にしたいものである。

(一町民)

文化の日に思う

老人ホーム(東風荘)を自発的に慰問し、日頃勉強している郷土民謡の数々を披露した。

老人ホームの大広間には、比較的元気なお年寄り約六十名が集まり終始手拍子で聞き入り、楽しさをかくしきれない様子でした。

また、この民謡研究会では、定期的学習として毎月オ一土曜日には講師を招き指導を受けており、これまでも町の敬老会等にも出演し、社会奉仕団体として関係者から感謝されている。

趣味のある暮らし

新しい年を迎え気分も新しく今年の生活目標にむかってスタートしましょう。ところで「貴方の趣味は？」ときかれたら何とお答えになりますか。読書・音楽・書画・囲碁・マージャン・園芸・スポーツ・釣、果てはバチンコ等々「私はこれ」と即答出来る人は幸せです。それは生活の中で本当に心の安らぎを味わってられるからです。「わからない」「そんなことは年寄りの暇つぶしだ」「忙しくてそんな余裕はない」ときめつける人もないではない。また、それが半ば現実の中で最近の目まぐるしい社会環境の中では、求めながらも満たされずいらいらの因となる場合もあります。

辞書に趣味とは、生活に楽しみをつけ加えるもの、事物の持つ味わい、おもしろみ、おもむき等と書いてあるが、要は欲得を離れ、上手とか下手とかは別として、心から興味をもつて楽しめる事だと思います。誰しも長い人生には良いことばかりとはいきません。失意の時もあれば、孤独で寂しい時もあり、また、災害に合うこともあれば、不平不満もあるでしょうそんなとき我を忘れて一つの事に没頭出来たらどんなに慰められ、落着きを取り戻し救われ、老後を明るく生きることが出来るのではないかと等と考えられます。最近銀行員が歌謡曲の作詞作曲をしてヒットしたり、科学者がモダンバ

レーで心身をきたえたり、本気で努力している姿は美しくほ、えましいと思います。
忙しい日常生活の中に、楽しめる事と余裕を自分なりに発掘し、豊かな気分を毎日を送りたいものです。
(編集委員H)

子どもの教育

いつもテレビばかりで夜を過ぎ私、最近読書でもしてみようと思ひ立ち、石原慎太郎著「魂を植える教育」という本をひもといてみた。読む頃一つ一つが大変参考になり、沢山ここに記したかったが、その中でごく平凡であり普通のどこのおあさん方でもおられそうでした、小言めいてしま

いた。「子どもが病気の時に健康のありがたさを説け」
親は、子どもが病気になるとうるに子どもをいたわったり慰めたりするが、なぜそうした病気になるかを説かず咎めず過ぎ、すぐに医者に連れていくようであるむしろそういつた時こそ、親が子どもにいたずらに同情せず、原因になった子どもの不摂生を強く咎めることでいつそう強く感じ健康管理に對し子どもなりに関心をもち自覚するのではないか。
子どもはある限界を越せば、自分の肉体がそこなわれるといことを、なんとはなしに知っていても、他の欲求のせいで止めることができない。そうした習慣はある人間には一生つきまとうし、人生を通じて健康をそこなうことになるようだ。
そうした病床にあるときこそ、子どもの自主性による健康管理を強く説得すべきで、また、いかに健康がありがたいものであるかを教えておく必要がある。
慎太郎氏が子どものころまったくそしゃくせず物を食べ過ぎて一種の栄養障害で長らく学校を休んだ時に、母親がたびたびくどくどいってもよくかむ習慣がつけられなかったのを、ある時父親が「死にたくなければ、よくかめ」といつたそうである。その一言が胸を刺し、それまでにくらべて物をよくかんで食べるようになったそうである。

品評会に出品して

私もあまり胃腸が丈夫でないので、つとめて毎日よくかむようにしているが、これを読んで深く感ずるところがあり、たやすいようである子どもの教育のたいせつさを学びとった。大川原 一主婦

長い間農産物品評会は中止されていたが、今年は開かれた。係の人が私の家に来て何か出品してくれないかという。今年は早ばつて出すような野菜もない。例年さえ人にほめられる野菜など作ったことはないのに。
それで富山柿は出せる。しかしこれは何の手入れもしたわけでない。自然になったにすぎない。
あとは何にするか。あたりをみていた係のKさんがホーレン草がいいという。先祖代々ホーレン草はできないものとあきらめていたが昨年から畑に灰を入れて作ったものである。こんなものもと言われるままに出品した。
会場に行ってみたら二点とも二等に入賞していた。
あとで係の人に聞いてみたら、ホーレン草の葉といい、根といいりつばなものだったとのこと。金肥だけでなく堆肥をつかい土づくりがよいとほめられた。
これから毎年品評会を開いてもらえば、りつばなものもでると考えられる。
(一老農)



お地蔵さま 大野公園に

焼山地区にあった子育て地蔵が移転しなければならなくなつた。
この地蔵様は九十一年の長い間地元の人々に親しまれて来た文化財である。ある時代には地元青年達が集ってヨゴモリなどもして親しんでいた。
この状態を知った

杉内一氏、小林雄一氏の二人は将来動かすことなく、然も大熊町を一望に眺めることのできる格好の地大野公園隣に地主池田卓氏の好意により移転することができた。
とかく開発の波は文化財を破壊しがちである。この時に両氏の物心両面の並々な努力によつて移転し、お宮まで建設できたことは誠にうれしいことである。
(文化財調査委員 松本)